

多文化共生時代の 学びのあり方探る

英語教育セミナー

八戸市の英会話・コンピュータ教室「JACKSON TWO」のジャクソン（斉藤）博子代表は3日、同市のユートリーで英語教育セミナー「多文化共生時代を見据えた学びのあり方」を開いた。税理士法人MSAパートナーズ専務執行役員、八戸学院地域連携研究センター客員教授の淡路俊彦さんを講師に迎え、地域社会と次世代の可能性を広げる方策を探った。

淡路さんは青森県を「人口減少、少子高齢化先進県」と評し、「対応策を自ら考える必要があるが、先行できればメリットも大きい」と説明。「ただ若者を地域



多文化共生について講師と参加者が意見を交わしたセミナー

にとどめる施策はかえって内向き指向を強め、地域の問題を深刻にするリスクがある」として、多文化共生社会への変容と世界を見据えた地域施策の展開を求めた。

また、ジャクソン代表と同教室講師の関川ひかるさんは、英語教育の意義について「都市部と地方の教育の格差とは『機会の差』だ。学びの機会を広げること

で、若者が自信を持って世界へ出ていけるようにしたい」と力を込めた。
質疑応答では、海外からの技能実習生や特定技能の受け入れや、共生のためのルール作りなどについて意見が交わされた。

（上條哲洋）